



日本には昔から独特の色の呼び方がありました。vol.38のカラーは「勿忘草色(わすれなぐさいろ)」です。その名は、forget-me-notの英訳です。「勿忘草の空いろの花」などと表現されています。



当社営業本部にて被災地に向けての積み込み

3月25日の午前当社営業本部にて11トントラックに棺50本、仏衣200着、納体袋200枚などの積み込みを終え被災地に向かい、また同夜には、当社代表が先遣隊として現地(宮城県、岩手県)に向けて出発しました。被災地では葬祭事業者も被害を受け、犠牲者の納棺や搬送作業の人手不足が指摘されており、当社といたしまして、4月2日より2名の社員が交代で現地にて犠牲者の納棺作業や搬送業務に従事しております。被災状況については連日のテレビや新聞報道でよくご存知かと思いますが、実際、現地では潮や重油のにおいや砂ぼこりの中で、電気もなく過酷な状況での作業でした。被災されお亡くなりになられた方々を「死者」ではなく尊厳あるご遺体として、ご家族のもとへお返ししたいとの思いを胸にお手伝いさせていただきました。

被災されて亡くなられた方々のご遺体は、仙台市内の3ヶ所の斎場に各々安置され、火葬の日を待ってられる状態でした。仙台市には近代的な火葬場(葛岡斎場)がありますが、1日60体に火葬範囲を広げても、



葬祭場の一角をお棺の組み立て作業場としています

1週間から2週間の火葬待ちが当たり前になっているのが現状です。毎日、火葬待ちで安置されている多くのお柩にドライアイスを補充しに廻って状態の維持に努め、他府県の火葬場がやっと取れたということで遠方まで霊柩車の乗務など弊社スタッフも業務につき、殆ど休息する間も無く行っています。片道110kmの遠方にある県外の火葬場も、2週間待ちの状態です。

また、願い寺が津波に流され住職も行方不明となり、読経してもらえない方も大勢おられます。被災地の方々は辛抱・我慢の連続の日々です。霊柩車のハンドルを握りながらお送りさせていただいている故人に対して、心から哀悼の意を表せずには



安置所では、毎朝ボランティアスタッフがご供えをし、お申いをさせていただいています



## 頑張ろうニッポン

東日本大震災で被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

東日本大震災における  
私どもの支援活動

3月11日に発生した東日本大震災を受け、私ども公益社では全日本葬祭業協同組合連合会等と連携し、緊急災害備蓄品の棺や仏衣、納体袋などを拠出するとともに、ご遺体の保全や納棺作業、霊柩搬送業務に従事するボランティアスタッフを派遣いたしました。



毎日500本の棺が作られても半日で無くなってしまいます

いられません。また、『これでお役に立っているのだろうか…』『被災された方々に対して他に何かできることは…』自問自答の業務です。現地に入り、最初にお柩の前で手を合わせた合掌と比べ、ご遺体を搬送する毎に行う合掌は、故人の無念さを思うとともに、弔いの心と一日も早い復興を願う合掌に変わっていました。

随分以前に、お通夜の法話で『足る事を知れ』とおっしゃっておられた住職の声、無意識に幾度も頭の中を駆け巡りました。2ヶ月以上が経った現在もなお、約1万人の行方不明者がおられ、日々、新たなご遺体が収容される状況の中、これからも私たちのできる支援を継続してまいります。



身元が分かった方のお柩が日々安置されています

## アフター・会員施策向上化チーム

ご葬儀の後も引き続き、ご当家の立場になりお役に立てるよう、アフター訪問を行っています。

また、アイリス会員様には、ご葬儀以外にも会員としての特典を得られるよう更に充実した内容を検討しています。アイリス通信「虹」も前号からリニューアルし、より見やすく親しみやすい公益社の情報をお届けできるよう試行錯誤しながら進めています。会員様から、多くの温かいメッセージをいただき、それを励みに頑張っています。

また、文化講座「ガーデニング教室」を企画・開催いたしました。各種講座も更に充実したものになるよう、今後も定期的にアイリス会員様によりご満足いただけるようチーム内で結束しプロジェクトを進めています。各チームとの連携を図り、社員一人ひとり、真剣に取り組んで参ります。



## ブランド向上化チーム

「公益社ブランド向上化チーム」は公益社をより多くの皆様に知っていただき、地域の方々との「ふれあい」を大切に様々な催事に取り組んでおります。

3月初旬には、福満西今公民館において地域の方々とお葬式における疑問や不安、価格、サービス等についての座談会を開催させていただきました。お葬式の流れのひとつひとつがお客様にとっては知りたい事であったり、また不思議でもあったりと私達も新鮮な感覚でお話をさせていただき感謝しております。

また、家族葬とはどのように行なわれるのかを知っていただくために、4月17日にメモリアルプラザ公益会館において「家族葬セミナー」を開催させていただきました。家族葬セミナーは今後も近江八幡公益会館、八日市公益会館で開催の予定です。

更に、定期的な取り組みとして社員全員が地域清掃活動を実施しており、今後、近隣の方々と一緒に清掃活動ができることを目指しています。



## 2011年度入社式

4月16日、本社会議室にて2011年度入社式を行いました。

まず震災にて犠牲になられた方々に謹んで哀悼の意を表し黙祷を捧げました。

続いて当社の社是、社訓、行動指針を唱和し、10名の新入社員それぞれに辞令が交付され、同日より公益社の社員の一員となりました。

当社代表から葬祭のあり方や儀礼文化についての訓話のあと、さっそく新入社員研修に入りました。



## アイリス広場

読者の皆様の質問にお答えします。

- Q アイリスクラブ提携店で買い物をしたときにカードの提示を聞かれたことはありません。提携店へ周知して欲しい。
- A 提携店にはアイリスクラブ会員カードのプレートを設置していますが、再度確認のため全提携店を訪問させていただいています。
- Q 大河ドラマ「江」に関する滋賀の良いところを教えてください。
- A のんびり近江戦国の旅でご紹介してまいります。
- Q ハーレーに乗っています。自分の葬儀は家族葬でみんなが良かったねと思う葬儀（ハーレー葬）を望んでいます。
- A ご要望をしっかりと把握した上で、故人の人間性や人生観を尊重し心のこもった葬祭を提案させていただきます。
- Q 毎回答募していますが、プレゼントがなかなか当たりません。
- A いつもご応募いただきありがとうございます。たくさんのご応募の中から厳正なる抽選をしています。当たらなかった方には本当に申し訳ありません。これからもおハガキお待ちしております。

みなさまからたくさんご意見や感想をいただきありがとうございます。誌面に限りがあり全てをご紹介することができず、申し訳ありません。お送りいただいたおハガキの一言一句を大切に、今後の糧としたいと思っております。

## ご愛読者プレゼント

会員のみなさまに日頃の感謝の気持ちを込めて

抽選で **10** 名様に 「夏のこけ玉寄せ植え」プレゼント!

同封の応募ハガキのアンケートにお答えのうえ、必要事項を記入しご応募ください。

応募締切 平成23年6月20日(月)必着

★当選された方にはプレゼントお渡し日・場所をご連絡させていただくと共に、次号にて発表させていただきます。

お部屋のインテリアとして生活に癒しを与えてくれるかわいいこけ玉です。

水やり 夏は1日1回が目安で霧吹きでシュッシュと中まで水をしみ込ませます。(コップなどで静かにあげてもOK)

置き場所 ベランダやお庭に直置きせず、棚などの上に置いてください。風通しが良くなり、地熱の影響を受けにくします。

お部屋にも飾りたい…2、3日室内で管理するのも可能です。その場合無理に日当たりに置かず、風通しの良いところに置いてください。2、3日飾ったら屋外に出して外の空気に触れさせましょう。

●心をなごませてくれるこけ玉。毎日世話し、観察していると小さな芽やつぼみがつくなど、小さな変化も見えてとても楽しいですよ。愛情いっぱい注いで、こけ玉と楽しく暮らしてください。



vol.37「アマリリスの鉢植え」ご当選者

■彦根市/西川伸一様・尾田和義様・角田忠寛様 ■東近江市/小川清吉様・古川忠司様・藤本長蔵様 ■近江八幡市/谷田佳寿子様・橋 京子様 ■犬上郡/上野善久様 ■長浜市/中村浩敏様

あえて主義と呼ぶなら「生命合理主義」である。これだけで未来に行かねばならない。

説得し、乗り越えたいのは「経済合理主義」である。この場合「経済」とは、最も狭い意味でのそれである。すなわち「モノ・カネ」至上の経済である。

一人ひとり、一つひとつのいのちが、その本来の可能性を花ひらかせ、よりいきいきと、あるいはせめて少なくとも人なみに生き、幸せになるための、数々の手段と道具のうちの一つがモノであり、カネであった。

それがいつのまに逆転してしまったのか。いのちがいつのまに道具にされ、モノ・カネは目的になったのか。われわれはいつから、自ら作り出したモノにおびえ、ひれ伏すようになったのか。「管理」とか「制御」などは名ばかりで、見よ、モノ・カネに仕えるようになっていく。

一番大事なものを質草にして手に入れた便利や繁栄の、なんと脆弱であることか。

だがモノ・カネが悪いのではない。われわれがどこかで認識を、使い方を誤ったのだ。

われわれの経済合理、モノ・カネ主義は、非常に狭い範囲の、非常に短い時間の幅でしか通用しないものであった。

それがわかった。誤りを正す。

その合言葉が「生命合理主義」である。人間の身勝手な理屈ではなく、広く生命の理に合っていること。

進歩すること、拡大すること、競うことだけではなく、悩み立ち止まること、縮小すること、わかちあうことにも、等しく深い意味がある。それが、生命の理にかなうということだ。

「生命合理主義」で行く未来は、経済やモノ・カネを踏み潰していく未来ではない。

いのちはいのちのもとであった座に、モノ・カネはモノ・カネのもとであった座に、それぞれが、それぞれ

の、本来の位置に帰りゆくということである。

「生命合理主義」で行く未来は、だから、われわれの知らない未来ではない。いわば「懐かしい未来」なのである。

それは困難な未来だろうか。ことし、夜は少し暗くなるだろう。夏は少し暑くなるだろう。けれど、その夜の暗さや夏の暑さは、われわれに未知のものではないはずだ。

だから少しずつ、夜のものは夜に返し、昼のものは昼に返す。春のものは春に返し、夏のものには夏に返し、秋にも冬にも、季節のものは季節に返す。天のものは天に、地のものは地に返す。

身の丈以上に欲張って横取りしてきたものを返していこう。そう、われわれは、これから何かを失うのではなく、ただ、本来の持ち主たちに返すのだ。

そうして少しずつ、一番大事なものを取り戻す。人間であることを。

参考：ヘレナ ノーバーク・ホッジ『ラダック 懐かしい未来』山と溪谷社、2003

## 記念碑を建立！

昨年、会社設立60周年をむかえさせていただきました。本年1月に記念碑を建立いたしました。碑銘は当社とご縁のある臨済宗妙心寺派第三十三代管長河野太通老大師に筆をおとりいただきました。『報恩謝徳(ほうおんしゃとく)』とは、「今まで受けためぐみや恩に対してむくいようと、感謝の気持を持つこと」という意味を表しています。

先人、地域のみなさまへの感謝の気持ちを込めて毎月1日、15日を清いかたちでお迎えられるよう全社員が交代で磨きあげお花をたむけ、日々、心新たに業務に取り組んでいます。



平成二十三年一月吉日

株式会社 公益社 代表取締役 木川 英樹

私たちは創業以来、「人と人の心の結びつきを原点にした葬祭事業を通して儀礼文化の創造と発信に努めてまいりました。そしてこれからも私たちは、その原点を忘れることなく、地域の皆様にとつてのライフパートナーとして、その役割と使命を果たしていくことが我々の責務であります。

創立六十周年にあたり、先人、社員、協力業者各位はもとより地域の皆様との、これまでのご縁に感謝すると共に、より一層の心の結びつきを次代へと紡いでいくことを誓い、ここに記念の碑を建立する。

## 家族葬セミナー

4/17 メモリアルプラザ 公益会館



冒頭に当社代表から東日本大震災における当社の支援活動についてお話をさせていただきました。セミナーでは「家族葬」とはどんなお葬式なのか、またメリットとデメリットを実例をあげての説明に皆さん熱心に耳を傾けてくださっていました。「会員などの勧誘もなく安心して参加できました」「家族葬のことがよくわかりました」など、お帰りになるときの晴れやかな表情が印象的でした。

■次回家族葬セミナー  
 6月5日(日) 近江八幡公益会館にて  
 8月3日(水) 八日市公益会館にて

## ガーデニング教室

4/20 メモリアルプラザ 公益会館



初夏のお花をふんだんに使い、プロの講師の手ほどきを受けて、「季節の寄せ植え鉢」を仕上げていきました。ほかに園芸のノウハウや草花の育て方の裏ワザやコツなどを教えていただき、また気軽に質問したり、参加者同士で比べたり和気あいあいと楽しい時間を過ごしました。参加者は、「できるかなと心配だったけど、うまくできました」「すごく楽しくできました。素敵な鉢植えができました」と、満足げにでき上がった自分の作品を持ち帰られました。



## アイスクラス 提携店ご案内

会員のみなさまの暮らしに役立つお店を紹介するコーナーです。詳しくは各店にお問い合わせください。

会員特典

全品5%割引



フルーツショップフルカワでは、お手頃な価格のご家庭用からご贈答用まで、旬のフルーツを多数取り揃えております。彦根市内は無料配達いたしますので、ぜひご利用ください。

フルーツショップフルカワ  
 〒522-0081 彦根市京町三丁目2-19  
 tel.0749-24-0692

会員特典

こだわり地酒 10%OFF  
 リーファーコンテナ便ワイン 5%OFF



当店では、直接酒蔵へ出向き、圧倒的に質の高いおいしい地酒・焼酎・ワインを仕入れております。驚くほど美味しいお酒をぜひ味わってください。ギフトも承ります。

酒舗 まえたに  
 〒522-0072 彦根市船町5-10  
 tel.0749-22-0575

会員特典

ご来店お食事代から5%割引



炭燗の名物は、ひつまぶし。備長炭を使い表面はパリッと中はジューシーに焼き上げたうなぎをお楽しみいただけます。うなぎ料理のほかにも豆腐料理や釜飯など様々なメニューをご用意しております。

ひつまぶし・豆腐 炭燗  
 〒523-0856 近江八幡市音羽町26  
 tel.0748-31-3325

# 「江」縁の地

小谷城は浅井三姉妹の生まれた城で、NHK大河ドラマでも現地ロケも行われたが、その登山口近くにあるのが小谷寺だ。小谷寺は元を常勝寺という。約1300年前に小谷山の山上に開かれたと伝わっている。長政の祖父・亮政(すけまさ)が小谷城を築く時に麓に再建され、寺名を改め浅井氏の祈願寺となったとされている。残念ながら、信長の小谷城攻撃により寺も焼き討ちに遭い、浅井氏や三姉妹との関わりを伝える資料は遺されていない。幼い子どもたちを連れた「お市の方」も詣ったことだろう。

ところで、小谷城落城後、三姉妹が侍女に伴われ旧浅井町池奥から北野へ抜けた脱出ルートだと伝わる山道がある。身分を隠すため池奥で野良着を借り、北野へ抜け、旧浅井町平塚の「実宰院(当時 実宰庵)」に辿り着いたというの

だ。北野には同地の出身で、脱出に付き添った侍女の墓があり、脱出ルートは周辺の地理に詳しい地元の人ならでは道だったのだろうと推測されている。

実宰院は長政の姉・昌安見久尼(しょうあんけんきゅうに)が中興した寺院である。見久尼は自ら姉妹を養育したという。

小谷城落城後、三姉妹が落ちのびた先は、信長の居城・岐阜城とも、信長の弟の居城があった伊勢だともいわれているが、湖北には実宰院とする説があり、今後の研究が待たれるところである。

小谷寺、池奥、北野、実宰院。伝承を廻る旅の向こう側に三姉妹の姿を想うことができるだろうか……。

文・写真 北原 元気



三姉妹が旧浅井町池奥から北野へ抜けた脱出ルート



## DATA

如意輪山 小谷寺  
長浜市湖北町伊部329  
tel.0749-78-0257  
(拝観要予約)

小谷山 実宰院  
長浜市平塚町149  
tel.0749-74-0653  
(拝観要予約)



小谷寺



侍女の墓



実宰院



## 公益社のエコ活動

### ダンボールリサイクル100%

普段よく目にするダンボールは、リサイクルという目線から見ると、原紙の古紙率はほぼ100%と言っていい素晴らしい状況です。

箱としての用途が多く、みかんの箱や引越しの際に使用する箱などが一般的です。公益社でも粗飼料品や備品が入荷するときはほとんどがダンボールです。

その中に梱包される商品を輸送や保管、荷扱いの振動、衝撃から保護するため幅広く使われています。

ダンボールのリサイクルには、既存のリサイクル機構が有効に機能しており、当社から排出されるものは新聞などと同時に直接リサイクル業者へ持ち込みます。

ダンボールは、何度もリサイクルされてまたダンボールに生まれ変わるのです。

こんな便利なダンボールを、身近すぎるゆえに私たちはその現状を知らず、ただの箱と考えてしまうことが多いのですが、今は地球環境を考えたリサイクル商品などが注目されるようになっています。

回収して、再生紙にしてまたダンボールにするといった『リサイクルの王様』をこれからも活用していきます。

5月23日・24日、ISO14001環境マネジメントシステムの更新審査が実施されました。環境に対する当社の取り組みや運用管理、地域貢献に対する評価をいただきました。

## 伝授

### 老舗の手技

派手好みの武将・織田信長が、こんにやくまで赤く染めさせたのが、近江八幡の赤こんにやくである、或いは、左義長まつりの山車に飾られる赤紙にヒントを得て、近江商人が考案したのだともいわれています。近江八幡の家庭では一般的な食材で、冠婚葬祭にも必ず登場します。白和え、辛子和え、おでん、きんぴらなどの他、すき焼きにも赤い糸こんにやくを使うこともあります。最初の下ゆでして独特の臭みをとってから使うこと。このなんでもないひと手間が、赤こんにやくを美味しく調理する秘訣です。

魚庄さんは、赤こんにやくを使った肉じやがや牛鍋なども店頭多智サービスエリアなどで販売しております。一度、老舗の味を体験してみるのもいいかもしれませんね。



\*赤こんにやくの白和え、アレンジで食べるラー油を添えてもよい。  
\*赤こんにやくと丁子麩の辛子和えも。糸こんにやくに添えてもよい。

#### 取材協力 日本料理 魚庄

■近江八幡店(本店) 近江八幡市馬淵町1720  
tel.0748-3712001 / fax.0748-377019  
■五個荘店(五個荘工房) 東近江市五個荘築瀬町2-3  
tel.0748-4515400

公益社は、24時間365日いつでも対応いたします

株式会社 公益社 本社：〒522-0054 滋賀県彦根市西今町939番地  
TEL.0749(22)5000(代) FAX.0749(22)0042

ご葬儀のご相談・ご依頼・資料のご請求は

☎ 0120-61-4000